

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600472		
法人名	有限会社 楽さん家		
事業所名	24時間宅老所 新田の楽さん家		
所在地	〒747-0825 防府市新田966番1		
自己評価作成日	平成28年11月2日	評価結果市町受理日	平成29年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・その人らしさを大切に、要望に沿って柔軟な対応で個別外出支援を行っている。(買い物・散歩・美容院・一時帰宅・お墓参りなど) ・入居者の方々や家族が過ごしやすい環境として、落ち着いた和のテイストにこだわっている。 ・請求書を発送する際に、日常生活や関わりの写真を同封している。 ・入浴支援は本人の意向を大切に、同性介助を行っている。 ・医療機関と連携を取り、看取り支援の体制が整っている。 ・認知症の理解・対応の参考例となるような認知症劇や認知症紙芝居を行っている。(劇団『一期一会』を職員で立ち上げている)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>毎月、事業所だよりに添えて、利用者を担当している職員が手書きで、利用者の様子を記した手紙と、1ヶ月間の写真の中で一番良かった利用者の写真を一緒に家族に送付して、利用者の近況報告をしております。家族は、毎月の職員の全体会議に参加されたり、事業所の行事や避難訓練に参加され「喜びシート」で職員の良かったと思うことを伝えられたり、面会時など、いろいろな場面で職員が家族に声かけをされ、家族の意見や要望を聞いておられ、事業所は、家族との信頼関係を築いております。利用者の思いや意向の把握に努めておられ、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れない支援や、利用者の要望に合わせて、映画館に映画鑑賞に出かけられたり、カラオケボックスに行かれるなど、個別外出の支援に取り組まれています。事業所は地域の一人として日常的に交流しておられる他、地域貢献に取り組まれています。事業所の避難訓練にも、たくさんの住民が参加しておられ、災害時の地域連絡網を作成され、地域との協力体制を築いておられるなど、地域との関わりを深めておられます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の理念を玄関に掲示しており、職員も日頃から理念を意識・再確認出来るよう、小事務所に掲示している。 リーダーが現場の中でスーパーバイズしている。 	<p>法人の理念と事業所独自の理念を事業所内に掲示している。月1回の全体会議で理念について確認している他、管理者が日常の業務の中で職員を指導して、理念の意識づけをし、理念を共有して実践につなげている。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 地区の納涼祭や大掃除に参加している。 地域の保育所の園児にお遊戯会を定期的に開催してもらっている。 ボランティアの方のイベントを定期的に実施している。 楽さん家だよりを月に1度作成し、地域の方へ配布している。 Facebookに支援状況の情報を発信している。 	<p>事業所は自治会に加入している。年2回、地域の清掃活動に、利用者と職員が参加している。地域である納涼祭には、利用者が家族と一緒に参加し、地域の人と交流している。七夕には、近くの保育園児が来訪し、遊戯をしたりふれあいを楽しんでいる。事業所のクリスマス会には、民生委員や自治会長、家族が参加して交流している。ボランティア(フラダンス、ハンドベルやギターの演奏)の来訪がある。毎月事業所だよりを発行し、自治会長を通して、自治会に回覧してもらっている他、事業所と同じ班には、利用者と職員と一緒に配っている。利用者は周辺の散歩時に、出会った人と挨拶をしたり会話をしているなど、日常的に交流している。市の認知症普及事業の委託を受けて、地域で年2回認知症講座を行っている他、サポーター養成講座を年4回開催している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運絵推進会議の中で、支援状況の事例報告をしている。 地域と家族に参加して頂いた避難訓練の中で、介護教室を行っている。 劇団『一期一会』の活動で、認知症サポーター養成講座や認知症対応普及啓発事業の中で、認知症劇・認知症紙芝居を披露している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価会議の前に、情報を業務日誌へ周知して、前日迄に参加出来ない職員の意見を聞く。当日参加職員の意見も踏まえた全員の意見を反映していく。 外部評価終了後、翌月の全体会議の中で、協議をする時間を取り、結果や改善点を報告、目標設定を協議している。 	<p>評価するための書類を全職員に配布して、自己評価会議を開催し、管理者が評価の意義や項目について説明して、各自に記入してもらい、管理者と主任でまとめている。事業所独自で目標達成計画を立て、職員を育てる取り組みや避難訓練について、スキルアップや災害時の地域の連絡網の作成に取り組んでいる。</p>	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 会議録を作成して、全職員に供覧する。また、全体ミーティングの中で、担当者から報告を行い、改善点を協議している。 楽さん家だよりや情報ライブ(現在は玄関内のみ掲示)で、運営推進会議の状況報告をしている。 	<p>会議は、2ヶ月に1回開催している。地域とのつながりを深めるために、会議の地域メンバーを毎年変更している。事業所の取り組みや現状を報告し、紙芝居の発表をし、事前に知らせていたテーマで質疑応答や意見交換をしている。災害時の地域連絡網が必要という意見から、連絡網を作成し配布しているなど、意見を活かしている。</p>	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 制度面などで不明な点があれば、市に相談している。 防府市のGH連絡会の活動で連携を図っている。 	<p>市担当者とは、直接出向いたり、電話で相談して助言を得たり、情報交換をして協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議で情報交換している他、認知症サポーター養成講座で協力し、連携を図っている。</p>	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束マニュアルを作成し、全職員が確認出来るよう、スタッフルームへ設置している。 リーダーが現場の中でスーパーバイズしている。 社内で研修会を開催している。 	<p>マニュアルがあり、職員は正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。外に出たい利用者には、職員が一緒に出て支援している。</p>	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止マニュアルを作成し、全職員が確認出来るよう、スタッフルームへ設置している。 リーダーが現場の中でスーパーバイズしている。 社内で研修会を開催している。 職員のストレスマネジメントの研修会を年2回開催している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度についてのマニュアルを作成している。 ・権利擁護についてのマニュアルを作成している。 ・成年後見制度について、GH協会の方で研修の予定を組んでいる。(来年度) 		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時には、楽さん家の概要や料金体制、個人情報の取り扱いについて、重度化の指針など分かり易く伝えるよう配慮しながら説明している。 ・契約は管理者が主体で行っているが、管理者がプリセプターの役割を担って、他職員を同席させて教えている。 		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の方々からあがる意見を、要望シート・苦情シートに記載して、全職員へ周知している。 ・ご家族の方が来訪された際には、ヒヤリングしている。 ・全体会議の中で、あがっている要望シート・苦情シートについて協議し、改善に努めている。 	<p>相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時に家族に声かけをしたり、運営推進会議時、行事参加時などに個別に会話している他、毎月の職員の全体会議に、毎回2名の家族の参加があり、意見や要望を聞いている。意見があれば、要望シートや苦情シートに記録し全職員で話し合っている。毎月の事業所だよりに添えて、利用者の一番良かった写真や利用者を担当している職員の手書きの手紙を送付し、利用者の事業所での様子を家族に伝えている。家族からの情報が職員全員に伝わっていない件やケアに関する意見は、その都度職員間で話し合い対応し改善している。</p>	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者が勤務の中で、各職員と話す時間を設け、意見を聞き、職員の悩みなどの把握に努めている。 ・全体会議の中で、職員の意見を聞いている。 ・月1回の経営者会議の場で、管理者より代表へ報告している。 	<p>管理者は、月1回の全体会議や朝の申し送り時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中や職員が相談があるとき、気になるケアや対応に対して、意見を聞いている。記録等の事務的作業の時間割を話し合っ、利用者の状態に応じた関わり方を学ぶことで改善し、時間外勤務を少なくしている。「喜びシート」(利用者や家族、訪問者からほめられたことを記録)が、職員のモチベーションになっている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・月1回の経営者会議に代表、事業部長、各事業所管理者、事務が参加しており、代表へ報告し協議して、職員が仕事に対して充実感を感じられるような就業環境の見直しに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・経営者会議の中で、代表より参考となる研修会や他事業所の良い取り組みの情報提供をしており、事業所内で活用出来る事柄を管理者から職員へ伝えている。	外部研修は情報を職員に伝え、段階に応じて参加の機会を提供している。年3回参加している。内部研修は「認知症ケアに関すること」「ストレスマネジメント」「リスクマネジメント」「身体拘束」「高齢者虐待防止マニュアル」「緊急時の対応について」「避難訓練について」などの内容で不定期に実施し、職員は働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者が山口県宅老所グループホーム協会の理事をしており、管理者と職員が定期的に研修会へ参加して、他事業所の職員との交流を図り、施設見学会や親睦会に繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人や家族からの情報を元に、アセスメントシートを作成し、関わりを持っていく中でその都度あがってくる情報について、良かったホット、情報発見シート、要望シート、苦情シートなどにまとめ、職員間で情報共有している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の方が来訪された際には、話しやすいように落ち着ける時間や場所の配慮をして、確認を行う。 ・イベントに招待して、馴染の関係性づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・現在までに他のサービスを必要とされた方がおられないが、常に本人の状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向を元に、家事を一緒にしている。 ・散歩や買い物を一緒にしている。 		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の方にもイベントに参加して頂いて、本人と一緒に充実して過ごせる場の提供に努めている。 ・お墓参りや一時帰宅に家族の方にも協力を仰ぎ、同行してもらう。(家族の状況に応じて) ・来訪時には日常生活状況について報告している。 		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅への一時帰宅やお墓参り、美容院などの馴染の場所へ外出している。 ・馴染の方に楽さん家に来て頂いている。 	<p>家族の面会や知人、親戚の人、近所の人などの来訪がある他、手紙や絵はがきでの支援、馴染みの理美容院の利用などの支援をしている。訪問美容院の利用もあり馴染みとなっている。家族(美容師)が年に2回カットに来訪している。家族の協力を得て、一時帰宅や墓参り、外泊など馴染みの関係が途切れないように取り組んでいる。</p>	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の方それぞれの関係性に応じ、考慮した席を配置しているが、一人ひとりの希望に沿って個別支援をメインにしている。 ・その時々で状況で入居者の方々が関わり合えるよう、家事を皆さんで行ったり、ティータイムでお話する、レクリエーションを楽しむ、一緒に外出する事などを通して馴染の関係性作りに努めている。 		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退去希望をされた方には、今後不安に思われる事や要望を聴くと共に、今後必要とされるサービスの情報提供をしたり、その後の経過について連絡確認し、相談にも応じていくよう努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の要望、意向をその都度確認して支援している。本人の要望、意向を聞く(伝える)事が難しい方に関しては、ご家族から情報を伺ったり、その方の立場に立って、想いをくみとり支援している。 	<p>アセスメントシートを活用し、要望シートに本人や家族から聞き取りをして記入している他、日々の関わりの中での利用者の言葉、様子が職員が気づいたことなど、24時間生活シートに記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族から情報を伺い、把握に努めている。 ・情報シートを作成している。 ・アセスメントシート、サマリーを活用している。 		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務者間の口頭での引き継ぎ、業務日誌(夜間報告、医療報告欄、関わりについての目標など)や、D-4シート、排泄チェック表、バイタルチェック表を確認して、把握に努めている。 ・コミュニケーションを図る、関わりの中で、その方の現状の把握をしている。 ・医療面については、何かあればその都度看護職員へ、またかかりつけ医へ報告や相談をしている。 		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に本人やご家族、職員の意見を聞き、その情報を元に話し合いを行い、介護計画書を作成している。 ・家族の方にも全体会議参加して頂き、その時あがった意見を反映させている。 	<p>本人や家族の要望や意向を事前に把握し、毎月の全体会議の中で、計画作成担当者や利用者を担当している職員を中心にして話し合い、介護計画を作成している。ケース検討表に、介護計画に応じた実施状況を記録し、毎月モニタリングを実施し見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度計画の見直しをしている。全体会議には、数名の家族が参加して要望等意見をのべており、介護計画に反映させている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・主にD-4シートに記載している。また、介護計画書にあがっている生活課題の内容に沿った、その日の支援目標を立て、業務日誌の関わりについての目標をあげて実践し、モニタリングもしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その都度である要望に沿って支援をする為、職員間で話し合い、優先順位を考えて支援に努めている。(散歩、買い物、美容院、一時帰宅、お墓参りなど)		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・スーパーや飲食店、美容院などの活用をしている。 ・地区の納涼祭への参加や、保育所の園児達によるお遊戯会を定期的で開催している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・24時間往診対応、看取り支援が可能な体制で、適切な支援を受けている。 ・初診の際は、ご家族の同行が可能であれば、同行して頂いている。 ・本人、ご家族の要望に応じて、その都度かかりつけ医に相談している。	利用者は、協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療がある他、必要時に応じて往診が受けられるように支援している。訪問歯科が3ヶ月に1回や必要に応じて往診している。他科受診は家族の協力を得て支援している。緊急時には、事業所の看護師によるオンコール体制や協力医療機関の24時間往診体制での連携が図られており、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・いつもと様子が違う時には、バイタルチェックをし、看護職員へ報告して判断を仰いでいる。看護職員に判断が難しい内容に関しては、かかりつけ医に相談している。 ・看護職員も24時間いつでも連絡が取れる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 入院が必要になった場合は、かかりつけ医、家族と話し合って方向性を決めている。 退院される前には、入院先の医師と家族で話し合ってもらい、かかりつけ医に移行する。 		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 契約時に本人、ご家族に重度化の指針について、要望を聴いて契約をしており、かかりつけ医にも情報提供している。 毎年看取り支援について要望を確認している。 身体状態が悪くなった時には、家族の意見をもとに職員間で話し合い、かかりつけ医にも相談している。 	事業所の重度化や終末期に向けた指針について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、その都度家族と話し合い、主治医に伝えたり、職員や関係者と話し合い、方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットや事故報告書を作成し、全職員へ情報を発信すると共に、全体会議で改善措置について協議している。 緊急時対応マニュアルを作成しており、全職員が確認出来るよう、スタッフルームに設置している。 看護職員の指導の下、勉強会を定期的に行っている。 	ヒヤリハット、事故報告書に発生した事例を記録し、回覧して全職員で共有し、全体会議で対応策について話し合い、改善し、介護計画に反映させて、一人ひとりの事故防止に努めている。毎月の全体会議の中で、看護師の指導で緊急時対応マニュアルに沿って学んでいる。応急手当や初期対応の訓練は、観察を十分行うことにより、異常の早期発見に努めることや、嘔吐物処理など、全職員でできるよう訓練を実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 食品、飲料水の備蓄をしている。 火災については、年に2回地域、家族の方に参加して頂き、避難訓練をしており、報告書にて全職員に情報提供をしている。(協力して頂ける自治会の方の緊急連絡網を作成している。) 社内での勉強会で、参加していない職員も避難訓練のシュミレーションを行っている。 	年2回、消防機器販売会社の協力を得て、避難訓練を実施している。1回は、運営推進会議時に、メンバーや利用者、地域の人(15名)の参加を得て実施している。1回は夜間を想定し、地域の人(10名)、家族(4名)、利用者が参加して実施している。訓練に参加や協力してもらった地域住民に声かけして、災害時の緊急連絡網を作成し、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関しては、羞恥心に配慮した声かけ（他の方がいる前でトイレの声かけをしない）をすると共に、足元にタオルを掛けている。 ・入浴に関しては、要望に応じて同性の職員が入浴介助しており、職員が介助する時の立ち位置にも気を配っている。 ・入浴支援中は脱衣所の入り口の戸やカーテンを閉め、他の職員や入居者の方々が脱衣場に入らないよう配慮している。 	職員は、人格の尊重やプライバシーについて内部研修で学び、利用者に敬意を払って接しており、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録は保管し取り扱いに注意している。守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・常に本人の要望を聴きながら支援している。（食事やお風呂の時間など）自己決定が難しい方に関しては、ある程度職員が情報を伝え、本人に決定してもらう。 ・希望に沿って、散歩や買い物、美容院、お墓参り、一時帰宅などされている。 		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・常日頃から、要望に応じて支援の流れを立てるように努めているが、入居者の方の混乱時の対応もあり、支援の実現が難しい時もあるので、職員間で連携を図りながら日々実践している。 		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・起きられた際には、くしで髪をといて頂いたり、本人の要望に応じてカチューシャを付けて頂いたり、顔剃りをして頂いたり、男性の方は毎日髭剃りをして頂いている。 ・外出時にはスカーフを巻かれる、また帽子を被っておられる。 ・馴染みの美容院へ行かれています。（ヘアカット・カラー・パーマ） 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 各入居者に合わせた適切な食事形態で対応している。(刻み食・ソフト食)好きな食べ物、嫌いな食べ物、禁忌食を把握している。(飲み物も含む)生魚が苦手な方は、火を通して提供している。 一緒に食事の盛り付けをして、食べたいと思って頂けるような声かけをしている。(メニューを食前に紹介) 食事を楽しむ一環として、食べたいと要望があった物を作る日や、好きなお弁当メニューを広告から選んでもらって提供している。(食事イベント) 	<p>三食とも、調理した食材を配達してもらい、湯煎して盛り付けている。昼食と夕食は調理専属の職員が担当し、朝食は夜勤者が担当している。刻み食やソフト食など利用者の状態に合わせて選べるようになっていく。月に2回、利用者の希望を聞いて、食材を利用者と買いに行き食事づくりをしている。利用者は、盛り付け、下膳、盆拭き、食器洗い、食器拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者が広告から弁当メニューを選んだり、食事イベントや誕生日のケーキのトッピング、月1回の外食や家族との外食など、食事が楽しめるように支援している。</p>	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ナリコマ食で栄養バランスの整った食事の提供をしている。(3食1400kcal・おやつ100kcal) 各入居者に応じて、美味しく食べ切れる食事量を提供したり、声かけも配慮している 水分も美味しく飲み切れる量に調整して、必要に応じてこまめにお出ししている。 提供する場所も配慮している(テラス・自室・談話室) 		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 各入居者の状況に合わせて、歯ブラシか口腔スポンジを使用している。 義歯の方は、夜間就寝時にポリドントに義歯をつけて洗浄して頂いている。 ご自身で対応が出来ない方に関しては、職員が自尊心に配慮しながら行っている。 		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 各入居者の状況に合った、布パンツ・紙パンツ・小パット・大パッド・オムツを使用している。 トイレで自立支援を促す声かけをすると共に、自尊心に配慮しながらサポートしている。 小事務所に排泄確認ボードを設置して、職員間で情報を共有すると共に、必要に応じ、トイレ誘導をしている。 	<p>排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせて、自尊心を傷つけない声かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 朝食時に乳酸飲料(ヤクルト・ミルミル・ジョア)を提供すると共に、こまめに水分の提供をしている。 散歩やペダル漕ぎを活用して運動して頂いている。 かかりつけ医に相談して下剤の量を調整し、なるべく自力で排便が出る様に取り組んでいる。 		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の方々の要望に沿って、羞恥心に配慮して同性介護を行っている。 入居者の希望に沿って、(10時～19時の間)365日入浴が出来る様に対応している。 気持ちよく入浴して頂けるように、声かけの工夫をしている。 要望によっては職員も一緒に入浴をする。(裸の付き合い) 	入浴は毎日、10時から昼食前までと、13時30分から16時、18時30分から19時30分の間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、3日に1回はゆっくり入浴できるように支援している。入浴剤を利用したり、ゆず風呂にして、効能や色や香りを楽しめるように支援している。入浴したくない人には職員が交代したり、声かけに工夫して入浴できるように対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 日中の関わり(活動)の充実化が図れるよう支援に努め、夜の安眠に繋がる様支援している。(夜間は電気の明るさや物音にも気を配る) 夜間浅眠の方や要望される方は、短時間お昼寝をして頂いている。 		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 薬局と訪問薬剤管理指導の契約をしており、薬の管理、副作用、用法や用量などの指導を受けている。 薬の服用で特変があった場合はかかりつけ医に相談している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家事手伝い(皿洗い・洗濯物干しなど)を声かけに工夫を凝らし行って頂き、作業終了後には感謝の言葉をお伝えしている。 ・映画が好きな入居者の方が職員と一緒にDVDを借りに行かれたり、映画館へ行かれている。 ・お好きな物(お菓子・パン・アイスなど)と一緒に買いに行き、食べられている。 	テレビ視聴(のど自慢、旅番組、スポーツ番組)、DVD視聴(歌番組、漫談)、新聞や週刊誌、本(花、動物)を読む、行事のアルバムを見る、ぬり絵、書初め、スケッチ、カラオケ、編み物、縫い物、繕い物、映画鑑賞やカラオケボックスに出かける、イベント(七夕、お月見、クリスマス)の飾りづくり、花植え、花や記念樹の水やり、買い物、散歩、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗い、モップかけなど楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者一人ひとりが喜びや張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく要望が実現出来るように、職員同士連携を図り支援に努めている。 ・要望の内容に応じて個別外出支援の計画を立てて実行している。 ・外出時に知人や地区の方に出会った際には挨拶、お話ししている。 	散歩や買い物、外食に出かけている他、個別に映画館で映画鑑賞やカラオケボックスに行っている。家族も一緒に花見(寒桜、梅、桜、紅葉)や地域行事(納涼祭)、初詣に出かけている。家族の協力を得て墓参りや外食、外泊など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に行かれた際にご自身で支払い出来る方に関しては、小遣いから支払いして頂く。 ・お金を所持したいと本人からの要望であれば、ご家族に相談し了承を得て、商品券や小銭を所持してもらっている。 		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・電話については、本人からの要望であれば、ご家族に相談し了承を得て、対応している。 ・手紙を書かれる方はおられないが、届いた年賀状の返信のお手伝いしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・外の光に関しては、その都度入居者の方々に確認しながら、カーテンで調整している。室内の電気も同様に入居者の方々に確認しながら調節している。 ・湿温計を食堂と各自室に設置しており、こまめに確認して温度調整をしている。 ・馴染みの物(写真、掲示物、季節感のある飾りなど)を自室に飾ったり、家庭的な雰囲気づくりをしている。(和のテイストで落ち着いた雰囲気の物) 	共有空間には、自然の光が差し込んで明るく、利用者の状況に合わせて、カーテンで調整している。正面玄関には、季節に合わせた飾り付けをしたり、全職員の似顔絵を貼って職員紹介をしている。室内に季節の花を生けたり、壁面に行事での写真や季節に合わせた飾りをし、季節感を取り入れている。室内にテーブルや椅子、ソファ、テレビを配置している他、白を基調とした明るく、落ちつける談話室があり、利用者同士や家族、職員が自由に話し合える居場所となっている。温度、湿度、明るさ、音に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりになりたいと要望があった時には、自室や和室、談話室を活用している。 ・食堂の席の配置を工夫したり、席の向きを変えて、見える景色を変えている。 		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染の家具を持って来て頂いたり、写真や小物、ポスター、カレンダーなどを飾っている。 ・必要な物品に関しては、一緒に買い物へ行き本人に選んでもらっている。 ・外出が難しい方に関しては、個々の好みに合わせた物の購入を職員が代行している。 	整理ダンス、ベット、布団、テレビ、生活用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、家族の写真やポスター、カレンダー、自分の作品、利用者の似顔絵などを飾って、安心して過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・自室前にはネームプレートや暖簾を設置したり、お風呂場前は分かり易い暖簾を設置している。 ・各入居者の状況に合わせ、自室に手すりを設置したり、ベッドにT字バーを設置している。 		

2. 目標達成計画

事業所名 24時間宅老所新田の楽さん家

作成日: 平成 29 年 3 月 5 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36 (16)	火災を想定した避難訓練は年に2回実施出来ているが、水害、台風、地震、津波などの非常災害発生時を想定した避難訓練の実施が出来ていないため、避難マニュアルが完全な物となっていない。	非常災害対応避難訓練の実施を行い、その際に地域住民の参加を促して、意見・協力を仰ぐ。	ハザードマップを活用し、立地条件に応じた被害想定の確認をする。避難場所となる関係機関との連携・協力体制の確保する。防災マニュアルの見直しと職員間への情報共有をする。非常災害対応避難訓練の実施をして、運営推進会議や避難訓練を通じて地域住民の参加を促して、意見を聞く。備蓄品の確保をする。	12ヶ月
2	14 (9)	職員間で認知症についての知識・理解度にばらつきがあるため、職員全体へ認知症についての知識・理解を深めていく必要がある。	認知症についての知識・理解度を深め、説明が出来るようになる。	社内勉強会の開催をする。外部研修会の情報発信をして、職員が参加しやすい環境を確保する。参加要件を満たす職員には、キャラバンメイト養成研修への参加を促す。職員間で認知症に関して、勉強会の企画・運営を行い、人に伝える機会を設ける事で個人の成長を促していく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。